

## 2.研究懇談会活動報告

### 1)構造系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ/講演者	参加人数	講演概要
1	4月15日	「Innovation and Invention」 —新たなる建築の可能性を拓くエンジニアの役割—/ クヌート・ゲツパート	92名	海外において空港ターミナル、歩道橋をはじめとし、革新的な30を超えるスタジアムの設計実績のあるSchlaich Bergemann und PartnerのCEOであるクヌート・ゲツパート氏が「Innovation and Invention」と題して講演した。
2	12月17日	受賞記念講演会及び祝賀会/ 田嶋和樹(日本コンクリート工学協会奨励賞)、 小西泰孝(日本建築構造技術者協会JSCA賞)	192名	平成25年度の日本コンクリート工学協会奨励賞を受賞した田嶋和樹先生が研究内容について、ならびに日本建築構造技術者協会JSCA賞奨励賞を受賞した本学大学院建築学専攻を修了した小西泰孝氏が受賞作品の「熊本駅西口駅前広場」について講演した。併せて、受賞を記念して懇親会を行った。

### 2)海洋系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ/講演者	参加人数	講演概要
1	5月13日(月)	東京都の河川管理のあり方について/ 大工原 洋充氏(東京都庁)	約150名	東京都の河川事業の系譜を踏まえ、環境と防災の双方からの取組みについて、貴重な写真や図面を用いた詳細な解説を頂いた。特に、近年多発している集中豪雨や東日本大震災以後の都内の河川、港湾設備の防災体制のあり方について、行政の立場から率直な検討課題についてお話をいただいた。
2	5月27日(月)	仕事を通じて得た海洋建築工学の視点と 社会への還元/ 高田好秀氏((株)日建設計)	約150名	JFEエンジニアリングに入社し、日建設計へと転職され現在に至るまでの略歴とそれまでに携わられたNTTドコモ静岡ビルやエナジースクエア、パシフィックセンチュリープレイス、サンケイビル、水圧鋼管、鋼橋、ハイブリッドケーソン、ホキ美術館、木材会館などについて計画から現場管理について、具体的に写真を示して学生に分かりやすく説明していただくと同時に、海洋建築工学の役割と学生に対しての構造系科目の学習に対するの動機づけをしていただいた。
3	6月6日(木)	波力発電の技術開発/ 大沢弘敬氏((独)海洋研究開発機構)	約40名	海洋エネルギーを利用した発電技術の動向を含めて、エネルギーの重要性と必要事項、波エネルギーのポテンシャル、波力発電装置の実例と現状、実業での取り組みと実用化に向けての課題を、わかりやすく丁寧に説明して頂いた。 また、講演後の質問も多数あり、活発な議論が行われ、学生が非常に興味を持っていたことが伺えた。
4	6月10日(月)	海洋関連プロジェクトにおける予測技術について/ 弘中真央氏(三井共同建設コンサルタント(株))	約150名	海洋環境関連のプロジェクトに関わった経験を通して、海洋建築・建設事業における海洋環境関連業務の概要とその重要性について、分かりやすく丁寧に解説して頂いた。また、海洋環境業務における予測技術について、実務上の課題と研究の現状等にわかりやすく解説して頂いた。
5	6月20日(木)	海洋の資源とエネルギーの開発/ 林昌奎氏(東京大学教授)	約40名	「資源」「エネルギー」「エネルギー資源」に関して海洋の資源・エネルギー開発だけではなく、幅広く説明をして頂いた。 再生可能エネルギーのポテンシャルについても詳しく説明して頂き、開発を実現するには「エネルギー収支」や「エネルギー量と開発コスト」が重要であることを実例をもとにわかりやすく説明して頂いた。 講義後も質問が多数あり、活発な議論が行われた。
6	6月27日(木)	福島沖洋上風力発電の実機実験/ 北小路 結花氏(ジャパンマリユニテッド(株))	25名	東日本大震災後の日本の再生可能エネルギー開発の一環として、洋上での風力発電装置の計画、設計の現状を解説して頂いた。また、大学で学んだことが、企業の仕事の現場に直結しているとの率直な講話は、学生にとっても改めて日々の勉学の刺激ともなり、講義後には活発な議論が行われた。
7	7月1日(月)	海洋建築工学からみた建築デザイン/ 富永恒太氏((株)松田平田設計)	約150名	建築士としての実績を踏まえて、建築・建設事業における建築デザインの重要性と楽しさについて解説して頂いた。講演後は、学生達からも率直な質問等が多数あり、活発な議論が行われた。

### 3) 計画系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ/講演者	参加人数	講演概要
1	7月31日	オウケンカフェ#01/田中元子+大西正紀	17名	2013年日本建築学会教育賞(教育貢献)を受賞したチームけんちく体操の2人が「けんちく体操」を紹介。
2	2013.8.28	オウケンカフェ#02/古澤大輔+馬場兼伸+黒川泰孝	32名	メジロスタジオ(古澤大輔+馬場兼伸+黒川泰孝)のこれまでの軌跡と3人の今後について紹介。
3	9月25日	オウケンカフェ#03/中崎透	42名	「あいちトリエンナーレ2013」にNadegata Instant Party(中崎透+山城大督+野田智子)として出品しているアーティストの活動を紹介します。
4	10月30日	オウケンカフェ#04/小川博央	41名	日本建築学会作品選奨と日本建築学会作品選集新人賞を受賞した「ちよだの森歯科診療所」を中心とした作品や、アメリカの建築雑誌「ARCHITECTURAL RECORD」が選出する世界の若手建築家10名の中の1人に選出されてからの話を紹介します。
5	11月27日	オウケンカフェ#05/今村雅樹+小泉雅生+高橋晶子	77名	7月に『パブリック空間の本 公共性をもった空間の今までとこれから』(彰国社)を出版した3人による鼎談。
6	12月18日	オウケンカフェ#06/辻琢磨	33名	403architecture[dajiba](彌田徹+辻琢磨+橋本健史)の最新作を中心に紹介します。
7	1月29日	オウケンカフェ#07/竹中司+岡部文	25名	AnS Studio(竹中司+岡部文)の最新作を中心に紹介します。
8	3月5日	オウケンカフェ#08/末光弘和	22名	SUEP.(末光弘和+末光陽子)の最新作を中心に紹介します。
9	3月26日	オウケンカフェ#09/星野諭	22名	子ども・若者が主体的にまちに参画するための環境づくりを行うNPOの活動を紹介します。

### 4) 材料施工系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ/講演者	参加人数	講演概要
1	6月8日(土)	「実態調査の思い出」 千葉工業大学 池永博威 「コンクリートに関する規格と資格」 ものづくり大学 飛内圭之 「14年5ヶ月の大学勤務を終えて」 第一工業大学 川崎三十四 「高強度コンクリートにおけるコア供試体の採取方法 およびコア強度の評価に関する研究」 ものづくり大学 大塚秀三	56名	1)過去に実施した実態調査について、楽しかったこと、苦労したことなど思い出を語っていただいた。 2)大学では余り重要視されていない規格が絶対的に遵守されなければならない。また、いろいろな資格ができ、それにも対応しなければ仕事ができない。コンクリートに関係するものだけに的を絞って解説していただいた。 3)係わった教育・研究・広報・管理運営を中心に地方大学の使命と努力状況について概説していただいた。 4)日本大学大学院理工学工学研究科から博士(工学)を授与された。コア強度の挙動について行ってきた一連の研究成果に基づいて、コア供試体の採取方法およびコア強度の評価方法の提案を纏めた学位論文について、ご講演いただいた。  定年を迎えられた3名の先生、学位を取得された大塚先生の祝賀会を行った。
2	8月19日(月)	「第38回研究講演会」 研究講演会	34名	・生物資源学部の構内を見学した。 ・最近公表された研究成果を発表・紹介いただいた。 発表件数28件
3	12月21日(土)	「大手ゼネコンでご活躍の方に聞く」 清水建設 宮崎隆光 「大手ゼネコンでご活躍の方に聞く」 鹿島建設 南谷 修	44名	大手ゼネコンでご活躍されている日大OBのお二方に、卒業後の歩みの中での経験、そしてゼネコンの運営に携わっている立場から、ご教示頂いた。
4	3月24日(月)	平成26年度定例会計画 笠井芳夫賞(優秀修士論文賞)表彰式 ならびに笠井芳夫賞受賞修士論文発表会 懇親会	34名	平成26年度の定例会の方針を決めた。 平成25年度笠井芳夫賞表彰式を行い、受賞学生に修士論文を説明頂いた。 発表件数12件 笠井芳夫賞受賞者を囲み、その門出を祝った。

5)環境技術系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ／講演者	参加人数	講演概要
1	10月24日(木)	「軽井沢 千住 博 美術館の照明計画」 鈴木 直行 氏(㈱遠藤照明, 日大理工建築卒)	42	東京, 京都, ニューヨークを拠点として精力的に制作活動を続け、ヴェネツィアビエンナーレ絵画部門で東洋人として初めて名誉賞を受賞, いま世界で最も注目されている建築家の西沢立衛氏と日本を代表する美術作家の千住博氏とのコラボレーションが生んだ自然光をふんだんに取り入れた美術館です。軽井沢の自然地形を活かし, 床はかつての土地の起伏のまま。約3千坪の敷地には, 150種類6万株を超えるピンク, イエロー, パープル, シルバー, レッド等の美しい樹々・草花のカラーリーフガーデンが, 世界が認める二人のアーティストによる夢のコラボレーションを祝福するかのように広がっています。光, 風, さわやかな空気を感じさせる軽井沢で創造的な新しい世界を創出する照明計画など光環境の捉え方などについて, ご紹介いただきました。
2	12月12日(木)	「福島県における日常を取り戻す試み」 浦部 智義 先生(日本大学工学部建築学科, 准教授)	38	震災及び原発事故の影響で, 未だに数多くの福島県民が発災前の住まいやまちを離れて避難生活をしている。発災から2年半以上が経ち, 程度の違いはあれ不安を抱えつつ現状に適応しながら生活を営んでいる様にも見える。 元の状態に戻ることが容易でない福島県で, より良い日常生活を取り戻す契機になるかも知れないと考え活動している取り組みをご紹介します。